

水産業強化支援事業事後評価報告書

富山県農林水産総合技術センター
水産研究所

政策目的	水産資源の持続的な利用・管理の推進	
政策目標	資源増養殖目標	
事業実施主体	富山県農林水産総合技術センター水産研究所	
実施地区名	富山県	
実施期間及び目標年度	実施期間	目標年度
	令和5年度	令和5年度
交付金額	500千円	
事業計画の内容	庄川のダム上流部に放流したアユの移動状況を把握する。	
評価	成果目標	移動状況の調査回数
	現状値	1（令和5年度末時点）
	目標値	1（令和5年度末）
	（1）現状値の説明	放流したアユの移動状況調査について、庄川本川および庄川上流の利賀川において放流調査を実施した。その結果、9月下旬～10月中旬の庄川本川においては、小原ダム上流域よりも下流域の方が採捕尾数が多く体サイズも大きかった。また、利賀川においては、放流されたアユは、7月は上流部に留まり、9月は下流部に移動した。
	（2）地域への経済効果 （ハード事業のみ）	該当なし
	（3）資源管理の取組状況等 （ハード事業のみ）	該当なし
	（4）所見	調査区域に放流したアユについて、夏季は河川上流部に留まり、産卵期に河川の下流部へ移動することが確認された。
（5）評価機関の意見等	評価機関なし	
今後の改善方向等に関する分析	得られた知見を、漁場計画策定に反映することが望ましい。	

別表（第4の4の（13）別記様式第7号関係）

水産業強化支援事業事後評価報告書

		黒部川内水面漁業協同組合
政策目的	水産資源の持続的な利用・管理の推進	
政策目標	資源増養殖目標	
事業実施主体	黒部川内水面漁業協同組合	
実施地区名	富山県	
実施期間及び目標年度	実施期間	目標年度
	令和5年度	令和5年度
交付金額	225千円	
事業計画の内容	黒部川におけるアユ及びサクラマスの上昇状況を把握する。	
評価	成果目標	上昇状況の調査回数
	現状値	10（令和5年度末時点） ※アユ5回、サクラマス5回
	目標値	4（令和5年度末）
	（1）現状値の説明	アユの上昇状況調査について、4/25～6/11にかけて実施した。投網により、114尾のアユが採捕された。サクラマスの上昇状況調査について、6/16～8/26にかけて実施した。投網・流し網により、60尾のサクラマスが採捕された。
	（2）地域への経済効果（ハード事業のみ）	該当なし
	（3）資源管理の取組状況等（ハード事業のみ）	該当なし
	（4）所見	上昇アユは5月12日に初めて確認され、5月16日にピークを迎えた。また、上昇アユの魚体は、上昇初期が最も大きく、その後徐々に小型化した。
（5）評価機関の意見等	評価機関なし	
今後の改善方向等に関する分析	アユ、サクラマスの上昇量の把握を継続していくことで、今後の放流時期・場所の選定や漁場環境維持につなげ、資源回復と漁獲量向上を図る。	

別表（第4の4の（13）別記様式第7号関係）

水産業強化支援事業事後評価報告書

		黒部川内水面漁業協同組合
政策目的	水産資源の持続的な利用・管理の推進	
政策目標	資源増養殖目標	
事業実施主体	黒部川内水面漁業協同組合	
実施地区名	富山県	
実施期間及び目標年度	実施期間	目標年度
	令和5年度	令和5年度
交付金額	100千円	
事業計画の内容	黒部川に放流したアユの定着・移動状況を把握する。	
評価	成果目標	定着・移動状況の調査回数
	現状値	6（令和5年度末時点）
	目標値	4（令和5年度末）
	（1）現状値の説明	放流したアユの移動状況調査について、5/25～9/27にかけて実施した。投網により、中流～下流域を中心に230尾のアユが採捕された。
	（2）地域への経済効果 （ハード事業のみ）	該当なし
	（3）資源管理の取組状況等 （ハード事業のみ）	該当なし
	（4）所見	アユの採捕は、中流～下流域が多かったことから、放流されたアユは上流へ移動することは少なく、定位もしくは下流へ移動するものが多いと考えられた。9月下旬には、産卵のため下流域への降下が確認された。
	（5）評価機関の意見等	評価機関なし
今後の改善方向等に関する分析	近年、天然遡上や漁獲量が減少し、漁場の喪失も見られる。資源回復に効果的な放流時期・場所の検討が必要である。	

別表（第4の4の（13）別記様式第7号関係）

水産業強化支援事業事後評価報告書

		黒部川内水面漁業協同組合
政策目的	水産資源の持続的な利用・管理の推進	
政策目標	資源増養殖目標	
事業実施主体	黒部川内水面漁業協同組合	
実施地区名	富山県	
実施期間及び目標年度	実施期間	目標年度
	令和5年度	令和5年度
交付金額	75千円	
事業計画の内容	黒部川の造成産卵床や自然産卵場において、産卵状況を把握する。	
評価	成果目標	産卵状況等の調査回数
	現状値	5（令和5年度末時点）
	目標値	3（令和5年度末）
	（1）現状値の説明	調査地点付近にアユ抱卵親魚を10/18に放流し、10/16～11/16にかけて調査した。造成産卵床では産着卵の確認ができたが、自然産卵床では確認できなかった。
	（2）地域への経済効果（ハード事業のみ）	該当なし
	（3）資源管理の取組状況等（ハード事業のみ）	該当なし
	（4）所見	造成箇所は砂が多かったが、自然産卵床は浮石が少なく河床も固まっており、手で掘り起こすことが困難な状況であった。
	（5）評価機関の意見等	評価機関なし
今後の改善方向等に関する分析	資源回復に効果的な産卵床を造成するため、放流時期、産卵床の造成場所および造成方法の検討を継続して実施する。	